

4 瘀血を伴う高齢女性膀胱炎に対する 駆瘀血剤の効果について

独立行政法人 国立病院機構 神戸医療センター 泌尿器科
大岡 均至

【目的】

瘀血を伴う高齢女性の急性単純性膀胱炎に対して、抗菌薬単独投与に加え桂枝茯苓丸、または猪苓湯合四物湯投与の臨床効果を検討する。

【対象と方法】

同意を得た女性90症例(年齢55-78[平均値:69.4]歳、寺澤の瘀血スコア21-42[平均値:30.1])を3群に割り付けた。1)CPDX-PR100mg、朝・夕2回、1週間投与(A)、2) Aに桂枝茯苓丸2.5gr.*3*4週間投与(B)、3) Aに猪苓湯合四物湯2.5gr.*3*4週間投与(C)。検討項目は培養(初診時)、治療開始前、1・4・8週間後の自覚症状の変化(頻尿、尿意切迫感、排尿時痛等)と他覚所見(検尿所見、瘀血スコア)。

【結果】

全菌株抗菌薬に感受性で、ベースライン値に有意差は認めない。自覚症状改善率では、1週後:66.7%,60.0%,76.7%(A,B,C)、4週後76.7%,73.3%,80.0%、8週後:63.3%,86.7%,73.3%(8週後、A B Cの群間に有意差なし[Fisher's exact test])であった。他覚所見改善率は、1週後:73.3%,80.0%,76.7%、4週後:83.3%,86.7%,80.0%、8週後:66.7%,96.7%,76.7%(8週後、A vs. B; $p=0.018$, Odds: 10.0 A vs. C; ns, B vs. C; ns [Fisher's exact test])。治療前瘀血スコア30点以上の症例は43.3%、53.3%、56.7%、8週間後は30.0%,0%,36.7%(A vs. B; $p=0.005$, Odds: 23.2, A vs. C; ns, B vs. C; $p=0.003$, Odds: 21.7)であった。

【考察】

瘀血スコアの改善は桂枝茯苓丸併用投与群において他群に比して有意な改善を認めた。自覚症状・他覚所見に関しては8週後の他覚所見に関してのみ、抗菌薬単独群と桂枝茯苓丸併用投与群の間に有意な改善が認められた。抗菌薬と桂枝茯苓丸の併用は瘀血を改善し、8週後の亜急性期の感染の再燃に関して抗菌薬単独投与群に比して有効である可能性が示唆された。今回の検討においては、猪苓湯合四物湯併用群での有用性は確認できなかった。

【結語】

桂枝茯苓丸の抗菌薬併用療法は、瘀血を伴う高齢女性の急性膀胱炎治療後の亜急性期の再発率を低減する可能性がある。